

ブルンジ月報（2022年5、6、7月）

1. 内政・外政

5月

- 4日、ソマリアでアフリカ連合（AU）の平和維持活動に従事するブルンジ人兵士10名を含む数十名が死亡。（Reuters）
- 6日、外務・開発協力省が四半期報告書を発表し、シンギロ大臣がルワンダとの関係について、二国間の国交正常化に向けたプロセスは満足できるレベルに達していると発言。残る課題は2015年のクーデター首謀者をルワンダ政府がブルンジに引き渡すことであると述べた。（AG News）
- 11日、ンダイシミア大統領が、コンゴ（民）で活動しているRED Tabala や FNL 等の武装集団からの提案があれば、ブルンジ政府として対話の用意があると発言。（AFP）
- 14日、ンダイシミア大統領が、ルワンダが2005年のクーデター首謀者を引き渡せば両国間の関係は改善すると発言。ルワンダ側関係機関と国交正常化に向けた協議を行っているとして述べた。（The East African）
- 18日、人権NGOのヒューマン・ライツ・ウォッチが、ブルンジの治安関係当局が野党派や反体制武装グループの協力者に対して暴力を振るっているとする報告書を発表。（Al Jazeera）
- 23日、ブルンジからルワンダに500キロ以上のコーヒーを密輸しようとしたブルンジ人16人に5年の禁固刑。最近、ンダイシミア大統領は、食料価格の高騰の陰でルワンダやタンザニアに食料を密輸している者がいると発言していた。（RNA）
- 27日、4月下旬に牛のリフトバレー熱がブルンジ国内で初めて報告されて以降、500件以上が確認、100頭以上の牛が死亡。ブルンジ政府は感染拡大予防策を発表。（Africanews）

6月

- 1日、与党 CNDD-FDD 党が、同党の青年団であるインボネラクレの若者250人以上を対象とした準軍事的トレーニングをキルンド県で開催。（SOS Media Burundi）
- 2日、野党 CNL 党の活動家ンサビマナ氏（Joselyne Nsabimana）がインボネラクレに殴打され病院に搬送。（SOS Media Burundi）
- 6日、マカンバ県の住民がインボネラクレの準軍事的トレーニングが民家に接近して実施されることに不安感を表明。（SOS Media Burundi）
- 6日、アフリカ連合（AU）がソマリアで死亡したブルンジ人兵士を追悼。ソマリアはアフリカ連合ソマリア暫定ミッション（ATMIS）に対し、同ミッションへの派遣国5カ国の中で二番目に多い約5,000人の兵士を派遣している。（Africanews）
- 14日、ブルンジとベトナムが、外交旅券及び公用旅券保持者の査証免除措置に合意。（Vietnam Plus）
- 17日、閣僚評議会が行政区間を再編する法案を承認。18県から5県に削減。（SOS

Media Burundi)

- 20日、AUの平和・安全保障委員会のメンバー15人が2日間のブルンジ訪問。ブルンジ国内の平和の定着及び治安にかかる進捗状況について協議した。(Region Week, Taarifa)
- 28日、ブルンジ国外に退避中の2野党の党首が、ケニヤッタ・ケニア大統領に、ンダイシミア大統領に対して選挙のやり直し及び政治的自由 (political space) の解放の求めに応じるよう説得を依頼する書簡を発出。同2党首は、MSD党のAlexis Sinduhije氏及びPPD-Girijambo党のLeonidas Hatugimana氏。(Medias Burundi)
- 28日、シンギロ外務・開発協力大臣が、外交週間の開会式において、コンゴ(民)における「テロリスト」による攻撃を遺憾であるとし、ナイロビで開催された首脳会談の提言に従い、EACの地域部隊に派兵すると発言。(Iwacu)

7月

- 17日、許鏡湖 (XU Jinghu) 中国政府アフリカ事務特別代表がブルンジを訪問し、農業、保健、インフラ等の優先分野における二国間関係の強化を約束。ンダイシミア大統領は、中国は、ブルンジにとって困難な時期も含めて長年寄り添ってきた国であると発言。(Yahoo news)
- 19日、米務省が発表した2022年版の人身取引報告書で、ブルンジ政府の捜査・起訴・有罪判決等に関する努力が評価され、第2階層の要注意国 (Watch List) から脱却。ブルンジ政府は、人身取引に関する国家委員会を設立していた。(Region Week)
- 22日、東アフリカ共同体 (EAC) の首脳会合で、ンダイシミア大統領が議長に選出。(The East African)
- 27日、ブルンジの人権団体BHRIによれば、ブルンジは2021年末以降、コンゴ(民)で活動するRED-Tabala等の武装集団と闘争するため、数百単位の兵士やインボネラクレの若者を同国に秘密裏に派遣している。(Al Jazeera, The East African)

2. 開発協力

5月

- 17日、タンザニア、ブルンジ、コンゴ(民)は、三カ国を結ぶ標準軌鉄道の延長プロジェクトのための9億米ドルのソフトローンをアフリカ開発銀行に呼びかけ。ンシエンバ財務大臣をはじめ、3カ国の財務大臣が世銀及びIMF理事会の場外で面談した。(Arib)

6月

- 10日、ブルンジ・EUが開催した協力の日のイベントに参加した各国代表が、直接財政支援の再開には数々の条件があるとし、ボシュ (Claude Bochu) EU大使は、直接支援のタイミングではまだないと発言。(SOS Medida Burundi)

- 27日、中国が支援したフジバジ水力発電所が稼働開始。1万5,000キロワット
の同発電所の稼働により、ブルンジの電力供給量は約3倍になる見込み。(Global
Times)

3. 経済

5月

- 12日、ンダイシミア大統領が、燃料費が年始から50%値上げしている影響で、輸
送費の高騰により日用品も値上がりしインフレの状態にある現状について、国民に忍
耐を呼びかけ。(Arib)

7月

- 22日、IMFによれば、2022年のブルンジの経済成長率見通しは3.3%。昨年の
3.1%から微増で、2023年には4.1%、2023年から2027年の平均成
長率は4.7%となる見通し。(Market Watch)

以上